

「日本画」の「前衛」

1938-1949

The Avant-Garde of "Nihonga"

アヴァンギャルドの煌き
広島に集結

絵画の「ジャンル」としての「日本画」。明治半ばに「洋画」に対する言葉として用いられて以来、その概念は、広く社会や人々の心に浸透し、自明のものとして現在も使用され続けています。「花鳥風月」や「雪月花」という言葉に代表されるような、美しい自然の中で営まれる人々の生活に主眼を置いた日本の美の世界が、繊細な線や美しい色彩で表現されてきたのです。そのような「日本画」の世界において、社会的にも激動の機相を呈する1930年代後半期、伝統的美意識に反旗を翻し、新たな表現を求める果敢な活動が生まれました。本展覧会は、それがわが国ではじめて具体化された「前衛」意識と位置づけ、紹介するものです。

1938年に結成された「歷程美術協会」の日本画家たちが生み出した新機軸の作品群は、鮮やかにその「前衛」動向を示しています。そしてこれらの日本画家たちに影響を与え、交流を深めた洋画家たちの存在も見逃せません。しかし時代は、太平洋戦争開戦前夜。本展覧会では、やがて戦争の拡大とともに「未完の前衛」と化した機相にも触れながら、戦後「歷程美術協会」の再生というべき1949年の「パンリアル美術協会」誕生までを視野におさめます。

本展覧会で紹介する約80点の作品の中には、新しく所在が判明し初公開となる作品や、関連作家の代表作品も数多く出品されます。広島出身の船田玉樹や丸木位里といった作家を含め、終戦をはさむ激動の時代の中で、「日本画」がいかなる表現を追求してきたか、その創作の軌跡を浮き彫りにします。



新次郎(群像) 1940年 北海道立近代美術館蔵



山形(歴史) 1939年 京都国立近代美術館蔵



山岡良文(シュルレアック) 1938年 個人蔵

◎シンポジウム「前衛「日本画」の軌跡」

(広島県立美術館友の会共催)
パネリスト：山野実綱(京都国立近代美術館学芸課長)
常屋吉生(山口大学教授)
天野一夫(豊田市美術館チーフキュレーター)
平成23年2月27日(日)午後1時30分～
広島県立美術館地階講堂

◎よくわかる解説付き「「日本画」の前衛展」鑑賞会

講師：永井明生(当館主任学芸員)
平成23年3月5日(土)午後1時30分～
広島県立美術館地階講堂

◎記念講演会「父・船田玉樹」

(広島県立美術館友の会共催)
講師：船田奇孝(絵師[Artist] Thereminist 船田玉樹ご子息)
平成23年3月6日(日)午後1時30分～
広島県立美術館地階講堂

◎美術講座「歷程美術協会と広島」

講師：永井明生(当館主任学芸員)
平成23年3月12日(土)午後1時30分～
広島県立美術館地階講堂

◎ギャラリートーク

平成23年2月25日(金)、3月11日(金)、25日(金)
各回午前11時～(本展の入館券が必要です)

本展入館券を
ご提示いただくと
繪景園に100円で
ご入館できます。*

詳しくは1階総合受付、または繪景園受付でお問い合わせください。



田口社(季節の停止) 1938年 大分県立美術館蔵



丸木位里(馬(部分)) 1939年 財団法人岸屋の里丸木美術館蔵



群像(顔のあま黒画) 1938年 東京国立近代美術館蔵



下村貞之介(雲) 1949年 京都国立近代美術館蔵

名画・繪景園とともに歩む アートの杜 広島県立美術館
広島県立美術館
HIROSHIMA PREFECTURAL ART MUSEUM

〒730-0014 広島市中区上横町2-22
Tel.082-221-6246 Fax.082-223-1444
URL <http://www1.hpam-unst.ocn.ne.jp/>

◎JR広島駅より約1km ◎広島城より約400m
◎市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白鳥橋で「繪景園前」下車約20m



入館料

	当日	前売/団体
一般	1,000円	800円
高・大学生	600円	400円
小・中学生	400円	200円

※団体は20名以上
※学生券をお求めの際は、学生証のご提示をお願いいたします。(小学生は除く)

前売券売所 / 広島県立美術館、セブンイレブン、広島市・呉市の主なプレイガイド、画廊・書材店など